

通告番号 番

令和 元年 11月 22日 午 前 時 分 受 領  
後

氏 名 小田桐 たかし ㊟

流山市議会議長 青野 直 様

市 政 に 関 す る 一 般 質 問 通 告 書

第4回定例会における一般質問を下記のとおり通告します。

質 問 事 項	要 旨 (質意を明確、具体的に)
1 市長の政治姿勢について	(1) 長期政権における政治の私物化や「政治とカネ」における疑惑に対する政治不信が高まっているが、市長としての見解を問う。 (2) 学校や学童保育の大規模化にともない、子どもの発育を支える質的充実が形骸化されているのではないかと大きな懸念をしているが、市長の見解を問う。
2 防災対策について	(1) 土日・祝祭日時の災害対応について、守衛室ではなく、代表電話でのやり取りができる体制とすることは、我が党だけではなく、7年前から各党派等からも提案されており、早急に『つながらない電話』対応を改善するべきではないか。 (2) 本市の『避難所運営マニュアル』は、台風19号等による避難所の開設・運営の実態を鑑み、適宜、適切かつ実態に合わせた内容に改善するべきではないか。また、避難所配置職員は、防災服を着用するなど安全確保等に十分配慮されるべきではないか。 (3) 全公共施設における『窓ガラス飛散防止フィルム』設置については、2016年の野田市内竜巻被害後から、わが党が指摘し続けており、安全性の向上に尽力されるべきではないか。
3 教育行政について	(1) 平成29年3月末にいじめ重大事態を位置づけて以降、いじめの対応をめぐる本市の取り組みの不適格さを指摘する、流山市いじめ対策調査会前会長による記者会見が10月21日に文部科学省記者クラブにて実施された。本市におけるいじめ重大事態の取り扱いについて、以下問う。 ア 10月21日の大学教授による記者会見と比較し、中間報告書はどのような内容だったのか。また、学校の出欠扱いなど、市教育委員会の見解とは異なる指摘も報道されているが、どう捉えているのか。 イ 本案について、平成29年度3月末のいじめ重大事態の位置づけが正しかったのか。また平成29年第1回定例会の私の一般質問に対し、「現在臨時招集をしてのいじめの対策調査会を立ち上げるほどの事案は発生しておりません」と答弁したが、本案の経過から正確性を欠いた答弁だったのではないか。 ウ 本案に対するいじめ対策調査会の中間報告書はどのような位置づけなのか。また、本案の中間報告書は2度にわたって市教育委員会に提出され、市長にも提出されていることを令和元年第2回定例会でわざわざ確認したにもかかわらず、対策等がなぜ総合教育会議や教育委員会議等で議論が深められなかったのか。